

わ

が

街

わ

が

故

郷

日本ピローブロック株式会社と堺市・中百舌鳥

1. 会社紹介

社名 日本ピローブロック株式会社
住所 大阪府堺市中百舌鳥町3丁331番地
連絡先 072-252-3481（代表）
URL www.fyhbearings.com



本社工場

1953年、当社は日本で初めてピローブロック（転がり軸受ユニット）の製造・販売に着手し、以来、ピローブロックの専門トップメーカーとしてグローバルな企業活動を展開しております。創業時より「品質第一」を企業理念とし、高品質の製品を提供することに全力を尽くしてまいりました。また、時代の変化を先取りし、あらゆるユーザーニーズにお応えできるよう、常に先進技術にチャレンジし、セラミックスなどの高付加価値軸受を素材から一貫して製造するなど、省エネルギー・省資源・地球環境に配慮した製品作りに邁進しております。数千種類ものピローブロックの生産を支える製造ラインでは、

当社独自の先端生産技術を集積し、生産から品質管理までを全自動制御しております。また、軸受仕上公差もJIS規格以上の厳格な社内公差を採用しており、高精度軸受として高い評価をいただいております。さらに、国内3工場（堺・美原・和歌山）、海外1工場（中国 秦皇島市）による4極生産体制をとることで生産効率を高め、トップレベルの製品供給能力を保有しております。



美原工場



和歌山工場

美原工場（左）と和歌山工場（右）



中国工場

沿革

- 1950 堺市中百舌鳥町にて「小林精工株式会社」設立。
- 1957 「日本ピローブロック製造株式会社」に社名変更。

- 1966 JIS規格表示工場の許可取得。通産大臣より輸出貢献企業認定を受ける。
- 1969 販売部門を分離、「日本ピローブロック販売株式会社」設立。
- 1982 米国現地法人、「FYH BEARING UNIT USA INC.」設立。
- 1992 中国現地法人、「秦皇島恩彼碧軸承有限公司」設立。
- 2000 ISO9002認定取得。(2003年に、ISO9001認定。)
- 2004 製造会社と販売会社が合併し、「日本ピローブロック株式会社」設立。

2. わが街 堺市・中百舌鳥

《はじめに》

日本ピローブロック株式会社は堺市・中百舌鳥（なかもず）にあります。仁徳天皇陵のすぐ東側といった方が一般には分かり良いかもしれませんが。昭和13年に堺市に編入されるまでは百舌鳥村と呼ばれていた地域で、中期古墳時代発祥の地として知られています。



仁徳天皇陵

堺には、中世から近世にかけて醸成された「自治都市」「南蛮貿易と豪商」「鉄砲と刃物」「千利休と信長・秀吉」という先進的で自由闊達なイメージが強く、また、その匂いを近代に受け継いだ先人達（河口慧海や与謝野晶子、坂田三吉など）に見られる奔放な気風があります。中百舌鳥にもそういった雰囲気はありますが、同時に古代文明の遺産「百舌鳥古墳群」を今に

残す由緒ある土地柄でもあります。そのため、わが街は大阪の大動脈ともいえる地下鉄御堂筋線の始発駅周辺という絶好の立地にあるにもかかわらず、西高野街道の古道に沿って道標・地藏堂・祠と古い町並みが続き、いわゆる駅周辺の再開発事業は、現在進行中の長曽根・中百舌鳥区画整理計画を除き、ほとんど手付かずのまま残されています。まさに四十六基の古墳群たえずむ歴史の街であるといえるでしょう。

《中百舌鳥の由来と沿革》

仁徳天皇在世の時（在位313～399年?）、天皇が造営中の寿陵（現在の仁徳天皇陵）にお立ち寄りになりました。このとき、突然一匹の鹿が草むらから飛び出し、そのまま御前で倒れて死んだといいます。これを怪しんだ付き人が様子を調べているうち、鹿の耳から一羽のモズ（百舌鳥）が飛び出します。鹿はモズに耳を食い裂かれていたのです。これにちなんで、この地を百舌鳥耳原と称すると日本書紀にあります。そして、現在でもこの御陵から西側の地を耳原、東側を百舌鳥と呼び、その伝説を今に残しています。さらに古事記においてもこの御陵は毛受（モズ）耳原陵と記されており、これらが「百舌鳥」の名の由来であるとされています。江戸時代には徳川の代官支配の下に置かれていましたが、のちに土屋、田安、清水などの所領となります。明治になると御料となり以来いくつかの変遷を辿りますが、明治22年に全国で町村制が施行されると、赤畑・本町・西・陵南の四つの郷は西百舌鳥村となり、梅・東・金口・夕雲の四郷が中百舌鳥村となりました。さらに大正8年、二村を合併して百舌鳥村と改め、昭和13年、堺市に編入され中百舌鳥として現在に至っています。ちなみに、堺の名は、平安時代、この地が摂津・河内・和泉の三国の境（さかい）に位置しているところから名付けられたといい

ます。とするならば、百舌鳥と比べずいぶんと新しい地名であると言えるでしょう。



堺市の鳥 モズ

《百舌鳥八幡宮と布団太鼓》

わが街を語るにあたり、百舌鳥八幡宮を抜きにすることはできません。この神社の歴史は、聖母神として信仰の厚い神功皇后（＝仁徳天皇の祖母）が三韓出兵から難波宮への帰還の際に、天下泰平の御祈願をたてられたことから始まるとされ、欽明天皇の時代（在位539～571年）に八幡大神の宣託をうけ創建されました。その後、社運次第に隆昌に赴き、王朝時代には社僧四十八ヶ寺、社家三百六十人、神領寺領八百町歩を領するまでになったと記されています。また、京都山城石清水八幡宮所蔵の古文書には、後白河天皇の保元三年に、当社が石清水八幡宮の万代別宮となっていたことが見え、また後宇多天皇の建治年間には、三百石の年貢米を本宮たる石清水八幡宮に納めていたとあります。その後、応仁の乱における兵乱や、やや下って大阪夏の陣などの戦火のため、一時は昔日の壮観を失うものの、江戸時代には幕府の庇護の下、地方信仰の中心として復興。現在では厄除け開運の神として広く市民に崇拜されています。社殿は、享保年間の再建で境内は約八千坪あり、社殿前には楠木の巨木があり樹齢八百年で大阪府の天然記念物に指定されています。

この百舌鳥八幡宮の祭は、旧暦8月15日の中秋名月を中心として行われるため、月見祭といわれています。現代暦では、9月上旬から10月

上旬にあたり、布団太鼓の奉納などにより、中秋名月に近い土・日曜日に举行されています。

この祭の起こりは、稲作の成熟期を迎えた豊作祈願と満月を祝う風習にあるといわれ、約三百年の歴史をもつ泉州有数の秋祭です。江戸から明治にかけては、岸和田で近年有名になった地車（だんじり）が奉納されていたようですが、大正2年に梅町が布団太鼓を奉納してから、他町も地車から布団太鼓に改め今日に至っています。いずれにせよ、百舌鳥の街ではこの伝統的神事に老いも若きも熱く燃え上がります。



布団太鼓

《中百舌鳥のこれから》

中百舌鳥が生まれ変わろうとしています。正確に言うと、中百舌鳥の北に隣接する地域が変わろうとしており、それがわが中百舌鳥にも新しい風を送りこみつつあります。いわゆる中百舌鳥新都心構想と呼ばれる計画です。中百舌鳥は、地下鉄御堂筋線と南海高野線という二つのルートで大阪市中心部と直結し、かつ泉北ニュータウンや和泉トリヴェールといった巨大な新興住宅地を後背に抱え、通勤通学者をはじめ多くの人が集まるビジネスポテンシャルの非常に高い地域です。したがって、こういった強い集客力を活かした広域商業や文化・娯楽関連サービス業など「ビジター関連産業や文化関連施設などの立地を促進していく戦略」が重要で、それがこの新都心構想の基本的な政策となります。また同時に、中百舌鳥には、堺商工会議所や南大阪地域地場産業振興センター、さかい新事業創

造センター、大阪府立大学といった産業支援機関が集積しているという利点があります。すなわち、南大阪地域の産業振興の先導的役割を担う諸機関がすでに配置されており、人材育成提供・情報収集提供・需要開拓イベント提供といったソフトインフラも十分に整備されているといえるでしょう。



区画整理中の長曽根・中百舌鳥地区

このような新しい潮流の中、わが街・中百舌鳥はどのように変わっていくのでしょうか。神功、応神、仁徳の御代より続く古代の薫りを豊かに残しながら、新都心構想とどう調和していくのでしょうか。ひらたく言えば、それを見つめ考え続けていくことが、私たち中百舌鳥で暮らし働く者のつとめであると考えます。

（日本ビローブロック株式会社 岸野 圭吾）

参考文献

堺市、大阪府都市開発㈱、百舌鳥八幡宮 各ホームページ
百舌鳥野の黎明（堺市百舌鳥土地区画整理組合）

